



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

第7回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 鹿児島 開催

平成27年9月11日に、鹿児島大学が主催者として、「第7回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 鹿児島」を開催しました。

本シンポジウムは、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」採択を受けた九州圏内国公私立大学11大学の男女共同参画に関わる理事・副学長が一堂に会し、各大学の取組や課題、今後の目標等を語り合う場となっており、平成20年度から毎年当番制で開催されているものです。

今回は、男女共同参画に関する様々な課題のうち、本学が大きな柱として掲げている「次世代育成」をテーマに、「男女共同参画未来創生 次世代へのバトンリレー 本音でTalk」と題し開催しました。

午前の部では、実務担当者連絡会が開催され、構成大学男女共同参画担当者から現状、課題・取組等が報告されました。また、同時帯に、各大学から推薦された大学院生を含む次世代研究者によるワークショップを橋口学長補佐（女性研究者支援担当）の進行により実施し、次世代育成について当事者としての視点からの意見をとりまとめました。

午後は、初めに、今回の新たな取組である、次世代研究者によるポスターセッションが行われ、多種多様な研究発表の中で、専門分野ならびに役職を越えた交流の場となりました。

次に、パネルディスカッション会場へと場を移し、前田学長による開会あいさつ、布袋鹿児島県副知事の来賓挨拶に始まり、構成大学の理事・副学長が登壇した後、今回のシンポジウムオーガナイザーである壽愛媛大学副学長の進行により進められました。

パネルディスカッションは2部で構成され、第1部は、各大学の理事・副学長より、それぞれの大学の取組・課題等が報告されました。

第2部は、午前中に行われたワークショップでの意見を元に、登壇者と会場の参加者との間で討論が展開されました。

次世代研究者側の意見は非常に率直でかつ重みのあるものが多く、その中でも、注目すべき意見として、「女性（研究者）の優遇政策のあり方」についてでした。女性研究者としては、「優遇」ではなく、「公平な評価」を求めているというものです。ポジティブアクションでは、男女間の環境・待遇に大きな差が認められる場合、その差異が解消されるまでは、片方の性別に対する優遇措置が容認されるとされています。

様々な意見が討議されたパネルディスカッションでしたが、総括として、オーガナイザーの壽先生より、現在アンフェアな状況に置かれている女性研究者にとっても、フェアなゲームを進めていかなければならないという発言が出されました。今後、フェアゲームを進めていくために、公平かつ透明性のある評価制度の早急な構築が望まれるところです。

パネルディスカッション終了後には、鈴木学長補佐（男女共同参画推進担当）による「Women Support 鹿児島宣言」が行われ、島総務担当理事の挨拶により盛況の中で閉会されました。

その他、ポスターアワードの最優秀賞ならびに優秀賞の発表が行われ、それぞれ、佐賀大学農学部辻田准教授、宮崎大学テニョアトラック推進機構安田准教授が受賞されました。

シンポジウム終了後の交流会では、和やかな雰囲気の下、次回担当校の琉球大学ならびに沖縄科学技術大学院大学（OIST）へバトンが渡されました。

さて、次回平成28年度は、海を渡り、琉球大学・OISTが当番校となり、本シンポジウム初の沖縄開催となります。どのようなテーマ、内容で開催されるのか、今から非常に楽しみです。



ワークショップの様子



ポスターセッションの様子



挨拶を行う前田学長



来賓の
布袋鹿児島県副知事



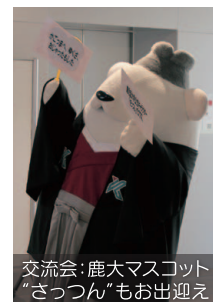
オーガナイザーを務める
壽愛媛大学副学長



パネルディスカッションの様子



シンポジウム後の交流会にて



交流会：鹿大マスコット
“ざっつん”もお出迎え

鹿大の女性研究者に Close-up!

鹿児島大学で研究している
女性研究者を紹介します。



フランスグルノーブルにて
(研究会参加のため)

Profile 新永 浩子 准教授 (学術研究院 理工学域理学系)

1999年3月	茨城大学大学院理工学研究科宇宙地球システム科学専攻 修了
1999年4月 ~ 同年7月	国立天文台天文データセンター ポスドク
1999年7月 ~ '01年8月	中央研究院天文及天文物理研究所 (台湾) ポスドク
2001年9月 ~ '04年8月	ハーバード大学観測所-スミソニアン天体物理学観測所天体物理学センター (米国) ポスドク
2004年9月 ~ '12年7月	カリフォルニア工科大学 (米国) 常勤サイエンティスト
2012年8月~同年12月	ハワイ州立ハワイ大学ヒロ校 (米国) 講師 及び 国立天文台ハワイ観測所 特別研究員
2012年12月 ~ '13年3月	国立天文台野辺山宇宙電波観測所 研究員
2013年4月 ~ '14年11月	国立天文台チリ観測所東アジアALMA地域センター プロジェクト准教授
2014年12月	現 職

★ 研究テーマは何ですか？

宇宙の研究をしています。電波と赤外線との波長帯 (ミリ波、サブミリ波) を使って、暗く冷たい物質を詳しく観測することにより、星の誕生と死の物理過程を調べています。

★ 研究者を目指した理由を教えてください。

小さい頃から天文学に興味があり、夜の星空をよく見上げている子供でした。大学で天文学教室に入ったのがきっかけで、研究者を目指すことに決めました。未知のことを明らかにしたときの興奮はやめられません。研究者の醍醐味です。

★ 研究の上で苦労されたことはありますか？

観測天文学なので、夜の観測や実験が多く、生活が不規則になることがあります。別の側面では、天文学も大型化が顕著で、鹿児島大に来る前に務めていたALMA望遠鏡プロジェクト (東アジア、北米、欧、南米チリとの共同開発) では、会議が沢山ありました。チリは日本とは地球の反対側なこともあり、電話会議は大概、日本の夜、または早朝の時間に設定されます。夜、会議にでていると、別室で寝ていた子供が起きてしまうこともしばしばありました。

★ これから研究者を目指す方へのメッセージ

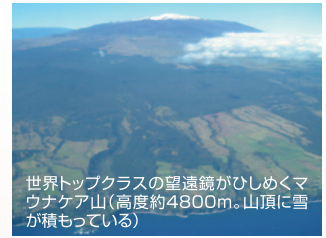
いろいろ悩んで試行錯誤してください。やりたいことを決めたらとことん突き詰めてほしいです。学部生、大学院生のみならずには無限の可能性があるので。

★ 日頃のモットー

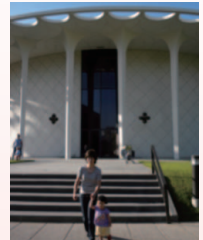
一期一会

★ 尊敬する人物とその理由は？

たくさんいますが、まず科学者のマイケル・ファラデーを挙げます。それまでの常識にとらわれず、自然を自然のまま観ることによって、数々の重要な発見を成し遂げ、世界を変えていきました。次に、レーザー、レーザーを発明、発見したチャーリー・タウンズ教授を尊敬します。私がマウナケア山 (写真参照) の観測所でお会いしたタウンズ教授は当時、90 ちかいお年でした。酸素の薄い山頂でなく、地上から遠隔観測ができるのにも関わらず、蝶ネクタイにスーツの出立ちで、自ら望遠鏡まで赴き、夜ごと熱心に観測されていた。その姿を思い出すと、背筋がピンとなります。今年1月、99歳でタウンズ教授は他界されました。ご冥福をお祈り申し上げます。宇宙背景放射を発見したボブ・ウィルソン教授は、サブミリ波干渉計プロジェクトと一緒に仕事をしました。60代後半でも現役でエンジニアチームを率い、自らコンピュータプログラムを書いて干渉計の性能向上に貢献なさっている。シニアであってもマネジメントだけでなく、現場でも活躍されている姿に感銘を受けました。



世界トップクラスの望遠鏡がひしめくマウナケア山 (高度約4800m)。山頂に雪が積もっている



仕事の後、子供をカリフォルニア工科大学のキャンパス内にある「Children's center」へ迎えに行った帰り道での一コマ

■ オープンキャンパス企画 ~“ガールズ☆Talk”~ 開催

平成27年8月1日(土)に、オープンキャンパス企画として、“ガールズ☆Talk”を開催しました。本企画は、女子中高生の進路選択支援の一環として、本学の女子大学院生15名(9研究科)の多様な研究発表を通じ、キャンパスライフや研究の面白さを伝え、将来において一人でも多く研究職に興味を持ってもらうことを目的に毎年開催しているもので、女子大学院生との交流が魅力的な内容となっています。今年は、天気も良く、県内外の多くの高校生・保護者が参加しました。参加者の中には、本企画を通して、「文系・理系の枠を超えて、研究に興味を持てた」との声や、大学院生においては「高校生に研究内容を分かりやすく説明することに努めたことにより、逆に自身の研究の整理に繋がった」との声がありました。



大学院生の説明に聞き入る参加者

■ 医歯学総合研究科における男女共同参画推進の取組

「医歯学総合研究科男女共同参画推進に係る取組及び今後の計画等」

1.男女共同参画推進に係る取組

○男女共同参画推進体制の整備: 就業環境の整備のひとつとして、今年度は医歯学総合研究科棟1のトイレを改修の際に女性に配慮した設計にしました。また、教員のワークライフバランスを改善するため、公的な会議等は、原則17時までに開始するよう努め、新規採用者には、育児・介護支援ガイドを配布し情報提供を行っています。さらに、男性教職員の育児休業や育児参加休暇等の取得の促進を図るための制度の案内も行っています。

○女性研究者在職比率の改善: 昨年度は女性研究者在職比率が16%でしたが、今年度は18%へと増加しました(図1参照)。また、平成26年度の職階ごとの男女比について、教授をはじめ講師以上の女性の比率はまだ低ですが、助教における女性の比率が高いことに加え、教授の公募文の最後に、男女共同参画社会基本法に則り、女性研究者の積極的な応募を歓迎する旨の記載をしていることから、今後、教授についても女性の比率が増加するものと思われます(図2参照)。



《執筆者》
大学院医歯学総合研究科
副研究科長
宮脇 正一 教授

○男女共同参画推進に係る意識啓発の推進: セミナー等開催の際は、教員へはメール・ポスター掲示・教授会でのアナウンス、学生へはWeb掲示板を使用して、積極的な参加を呼びかけています。

2.今後の計画

- 研究支援員制度・メンター制度の積極的活用とその啓発活動
- イベントなどの情報発信の推進
- ワークライフバランスに関する意識の向上
- メンタルヘルスの向上の推進
- 女性が働きやすい職場環境の改善

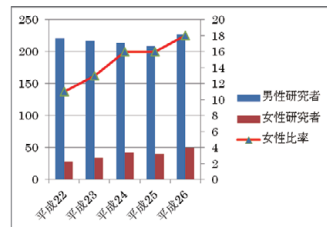


図1-女性研究者在職比率

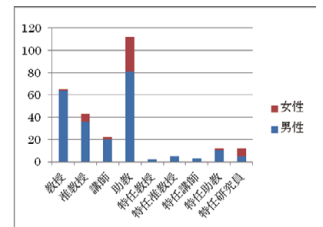


図2-職階別女性研究者比率

■ 女性研究者在籍状況 (H27/10/1現在)

平成27年10月1日現在 人数(比率)	
全体	198人(17.0%)
専任教員	156人(15.0%)
自然科学系分野	87人(11.6%)
理工農水分野	22人(6.2%)

Information

<今後の予定>

- ◆10月2日~翌1月29日 共通教育科目(後期)「男女共同参画とキャリアデザイン」開講
- ◆11月12日、12月18日、22日 職場環境改善ワークショップ
- ◆12月9日・10日 スキルアップセミナー(英語力向上)
- ◆12月3日、17日 キャリア形成セミナー
- ◆12月24日 介護セミナー